

平成 30 年 6 月 28 日

## 平成 30 年度 第 2 回 腫瘍センターセミナー開催報告

- 1) 開催日時：平成 30 年 6 月 26 日（火）18：00～19：00（質疑応答を含む）
- 2) 会場：岩手医科大学 創立 60 周年記念館 8 階 研修室
- 3) 内容：「免疫チェックポイント阻害薬の副作用と院内の取り組み」
- 4) 座長：志賀 清人 先生（頭頸部外科 教授）
- 5) 講師：◆二瓶 哲 先生（薬剤部 薬剤師）  
「院内で起きた免疫関連有害事象の現象は？リアルワールドデータから学ぶこと」  
◆吉田 絵里子 先生（糖尿病・代謝・内分泌内科 専門研修医）  
「ニボルマブ投与で発症した劇症 1 型糖尿病の一例」  
◆伊藤 薫樹 先生（臨床腫瘍科 教授）  
「院内での取り組み」
- 6) 参加者：39 名（医師診療科内訳：臨床腫瘍科、糖尿病・代謝・内分泌内科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、小児科、放射線治療科、看護専門基礎講座、口腔外科）

医師	15
歯科医師	1
看護師	2
薬剤師	17
事務職員等	4



### 7) 感想

- ・本日の内容を診療に役立てて行けたらと思います。
- ・勉強になりました。
- ・副作用全体を見渡す事ができて勉強になりました。
- ・院内での具体的な取り組み・体制を把握することができて良かった。irAE の全体的な知識の補強もすることができた。当科としては 1 型糖尿病発症を鋭敏にとらえる体制・手段について考えていきたい。
- ・非常に有意義なセミナーでした。

- ・ここ数年で急増した ICI の副作用や運用について再確認が出来、勉強になった。週に 1 名以上は ICI 投与患者と関わる部署なので、明日からの業務に活かしていきたい。
- ・ irAE への対応における岩手医大の取り組みの仕組みについて知ることができて良かった。
- ・当院の取り組みや状況を学ぶことができて良かった。
- ・今後免疫チェックポイント阻害薬の使用はさらに増えていくと思われるため、各職種がその対応を理解しておく必要があることがわかった。
- ・難しい免疫チェックポイントについて分かりやすく詳しく学ぶことができました。ありがとうございました。
- ・免疫チェックポイント阻害薬の副作用は全身に及び、薬剤師として見落としが無いように視野を広げる必要があると感じました。貴重な症例も知ることが出来て良かったです。
- ・ICI の使用実態から irAE 発現の実態について知ることができた。irAE は様々な症状が起こりうるということが考えられるということ再認識し、多職種の連携の重要性が今後大事になってくると思った。
- ・免疫チェックポイント阻害薬は適応も増えてきて、これからさらに使用件数が増えていくと思われれます。その時にさまざまな幅広い有害事象に対する病院全体での意識の共有がより良い治療を行うためには必要なのだと学びました。
- ・免疫チェックポイント阻害薬についての臨床データを詳しく知ることができました。

平成 30 年 5 月 23 日

## 平成 30 年度 第 1 回 腫瘍センターセミナー開催報告

- 1) 開催日時：平成 30 年 5 月 22 日（火）18：00～19：00（質疑応答を含む）
- 2) 会 場：岩手医科大学 創立 60 周年記念館 8 階 研修室
- 3) 内 容：「がん患者に対するリハビリテーション治療の有用性」
- 4) 講 師：西村 行秀先生（リハビリテーション医学科 教授）
- 5) 司会進行：伊藤 薫樹先生（腫瘍センター長 兼 臨床腫瘍学講座 教授）
- 6) 参加者：56 名

内訳（人数）

医師	7
看護師	7
薬剤師	10
理学療法士	15
作業療法士	8
放射線技師	2
医学生	3
事務職員等	4

（医師内訳）臨床腫瘍科、整形外科、頭頸部外科、放射線治療科、緩和ケア科、看護専門基礎講座

